

令和4年度  
水戸市居宅介護支援事業所に係る実態調査  
結果報告書

水戸市

## 調査概要

### 1 調査目的

この調査は、本市の居宅介護支援事業所の状況を調査することにより、今後、水戸市が介護人材の確保のための環境整備に係る施策を推進するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査対象及び件数

市内居宅介護支援事業所  
100 事業所

### 3 調査内容

介護支援専門員のサービス提供量等に関する設問 15 問  
「令和4年度 水戸市居宅介護支援事業所に係る実態調査」(15 ページ以降参照)のとおり。

### 4 調査基準日

令和5年3月1日(水)

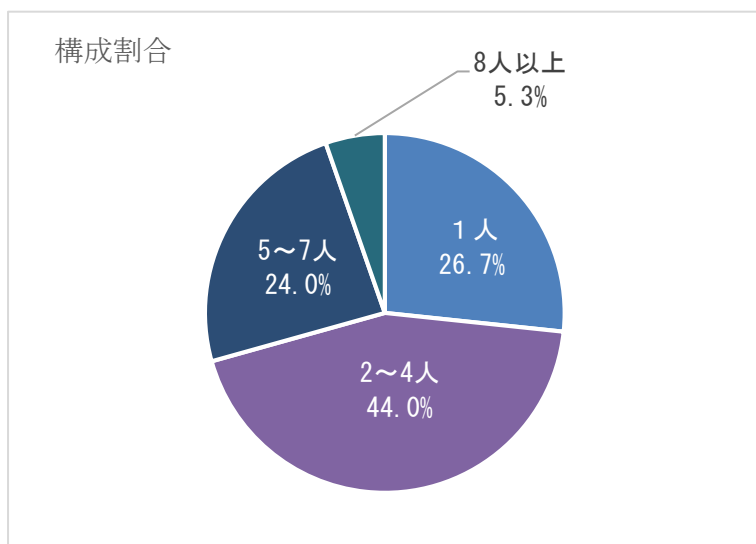
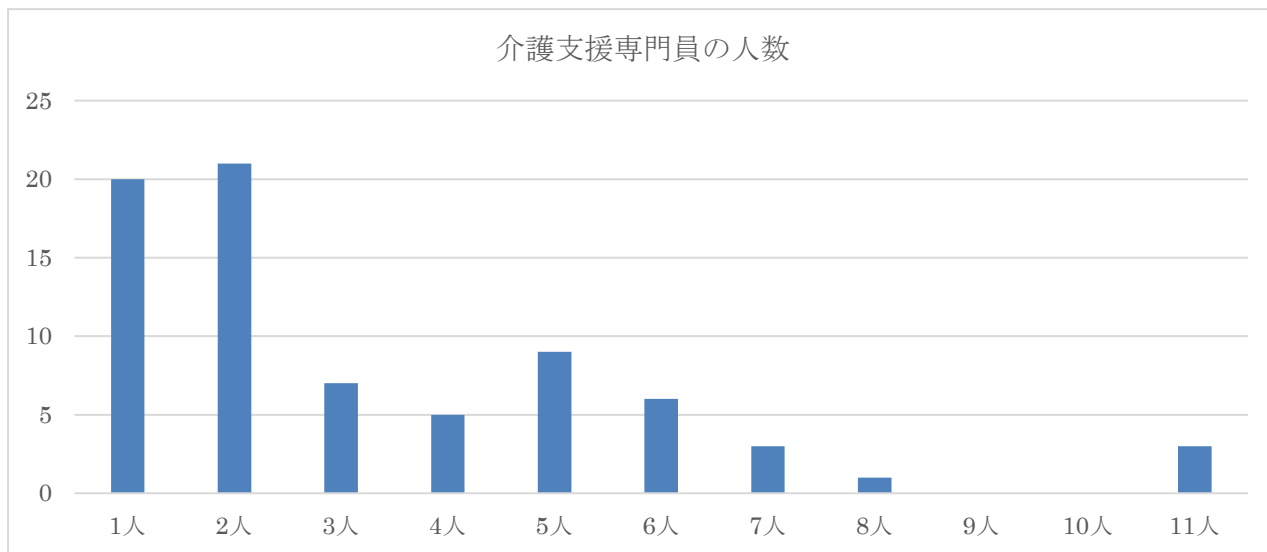
### 5 調査期間

令和5年3月 13 日(月)から令和5年3月 31 日(金)

### 6 調査票の回収状況

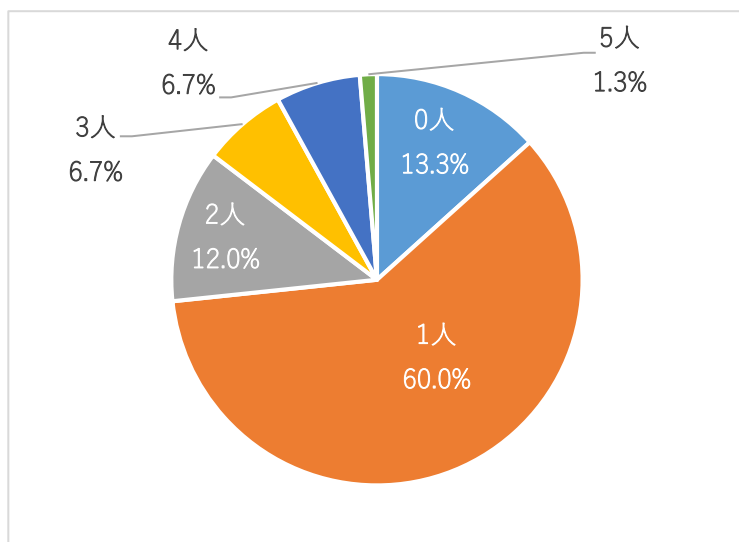
回収事業所 75 事業所 / 対象事業所 100 事業所 (回収率 75%)

問1 貴事業所における、介護支援専門員の人数をご回答ください。(産休・育休等で休職中の職員を含む。)

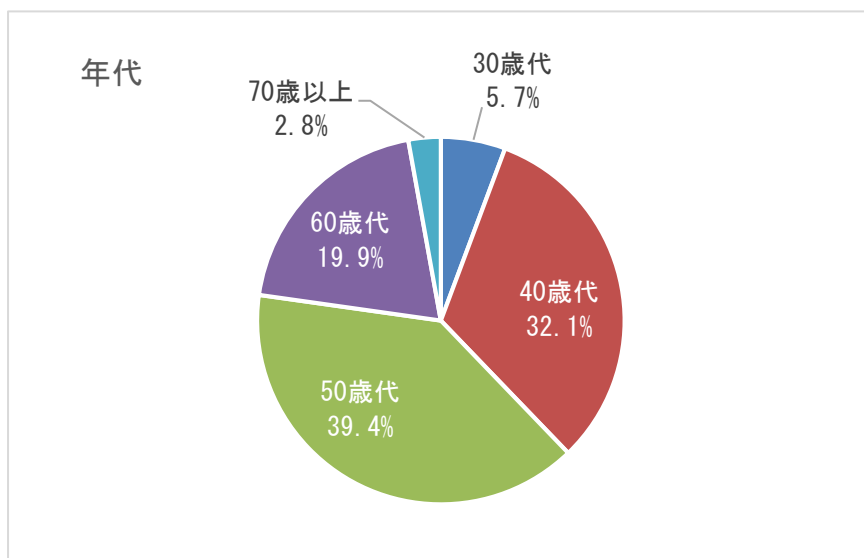


	回答	構成割合
1人	20	26.7%
2人	21	28.0%
3人	7	9.3%
4人	5	6.7%
5人	9	12.0%
6人	6	8.0%
7人	3	4.0%
8人	1	1.3%
9人	0	0.0%
10人	0	0.0%
11人	3	4.0%
合計	75	100%

(うち主任介護支援専門員の人数)

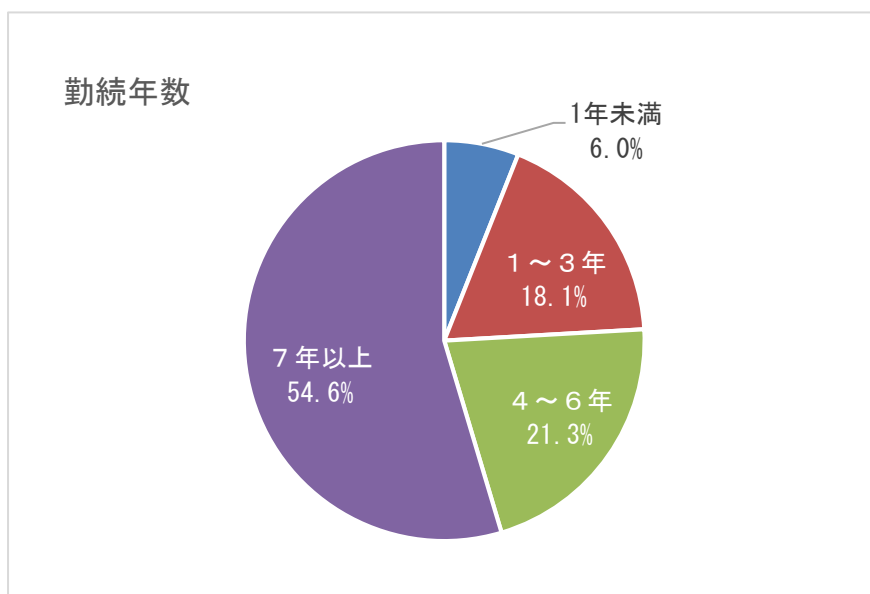


問2 貴事業所における、介護支援専門員の年代をご回答ください。(産休・育休等の休職期間を含む。)



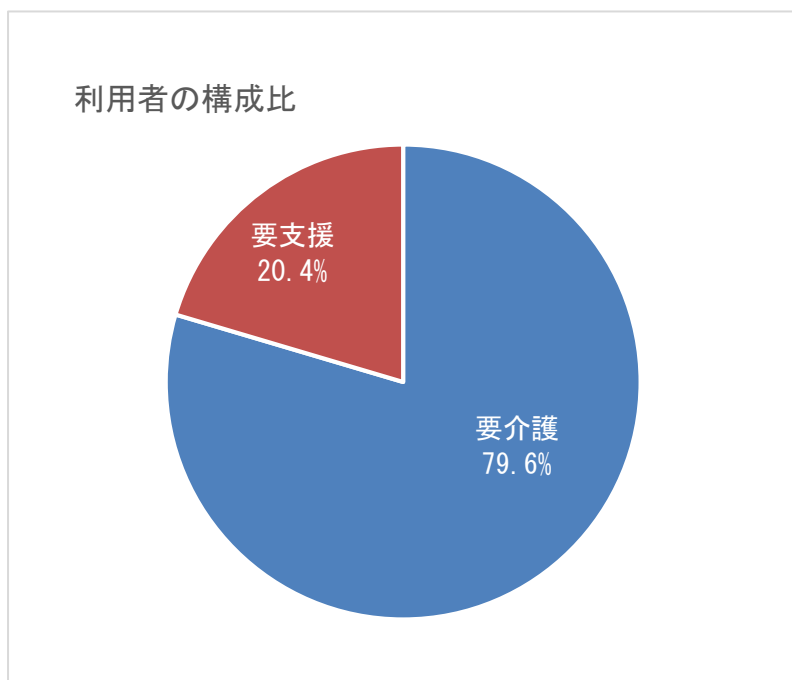
	回答	割合
20歳未満	0	0.0%
20歳代	0	0.0%
30歳代	14	5.7%
40歳代	79	32.1%
50歳代	97	39.4%
60歳代	49	19.9%
70歳以上	7	2.8%
合計	246	100.0%

問3 貴事業所における、介護支援専門員の勤続年数とその人数をご回答ください。(産休・育休等の休職期間を含む。)



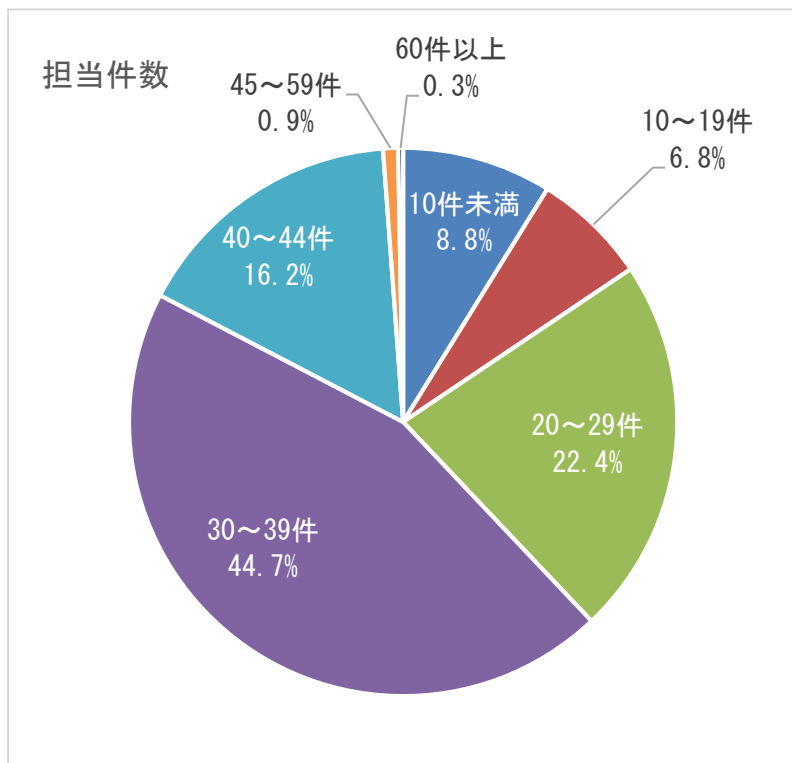
	回答	割合
1年未満	15	6.0%
1～3年	45	18.1%
4～6年	53	21.3%
7年以上	136	54.6%
合計	249	100.0%

問4 貴事業所における、利用者の人数をご回答ください。



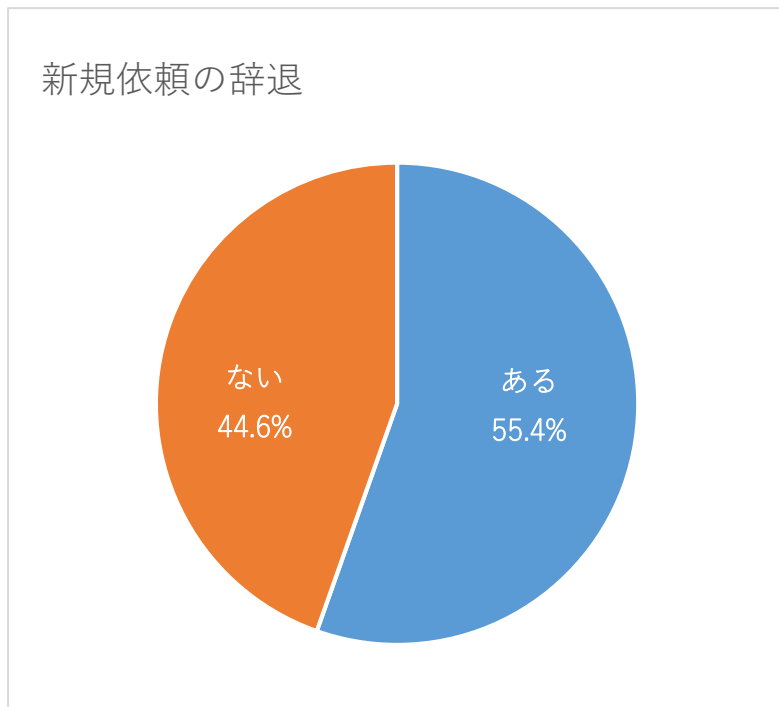
	回答	割合
要介護	6074	79.6%
要支援	1558	20.4%
合計	7632	100.0%

問5 貴事業所の介護支援専門員は、それぞれ何件担当していますか。(予防は1件に対し0.5件と数えてください。)



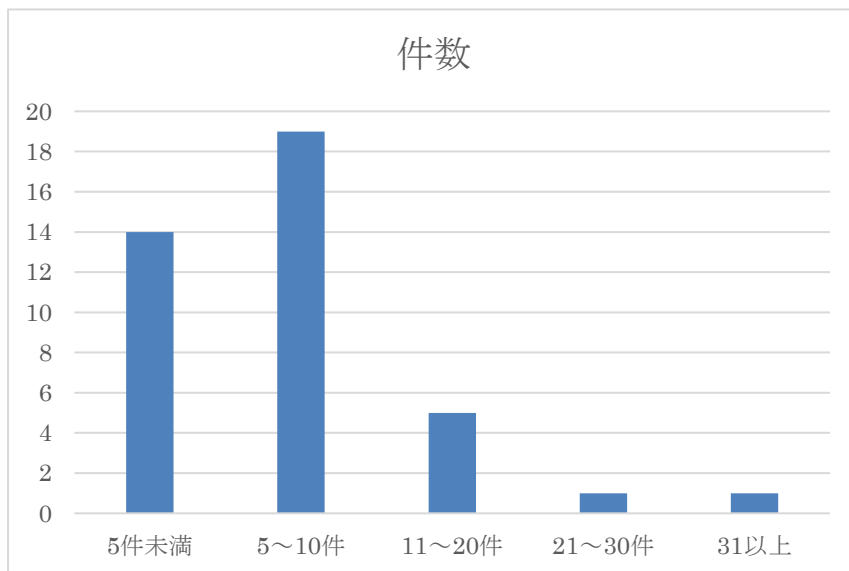
	回答	割合
10件未満	30	8.8%
10~19件	23	6.8%
20~29件	76	22.4%
30~39件	152	44.7%
40~44件	55	16.2%
45~59件	3	0.9%
60件以上	1	0.3%
合計	340	100.0%

問6 令和4年度に貴事業所において、介護支援専門員の不足が原因で新規の依頼を断ったことはありますか。



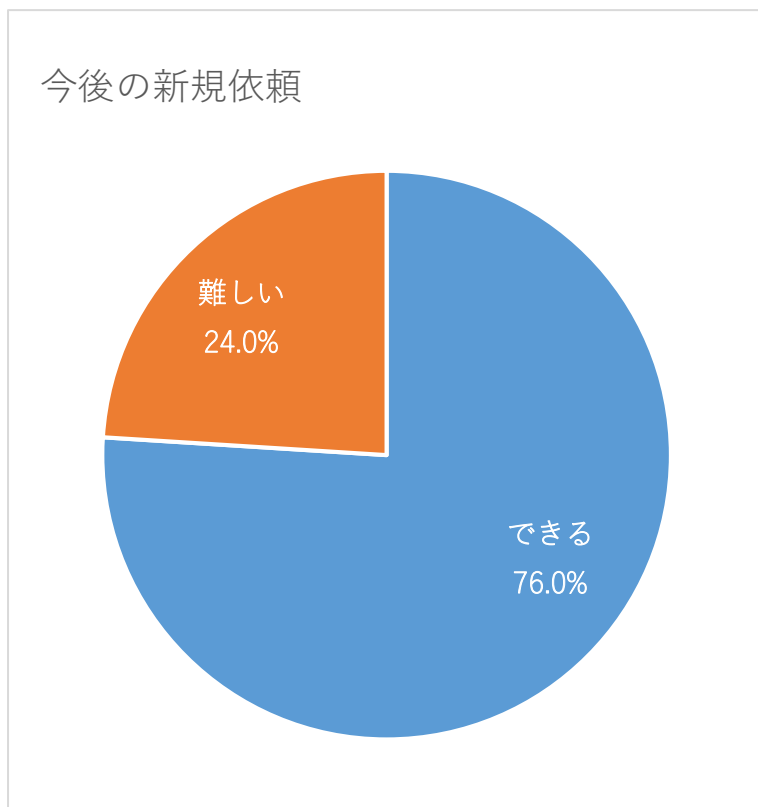
	回答	割合
ある	41	55.4%
ない	33	44.6%
合計	74	100.0%

【「ある」と答えた事業所】



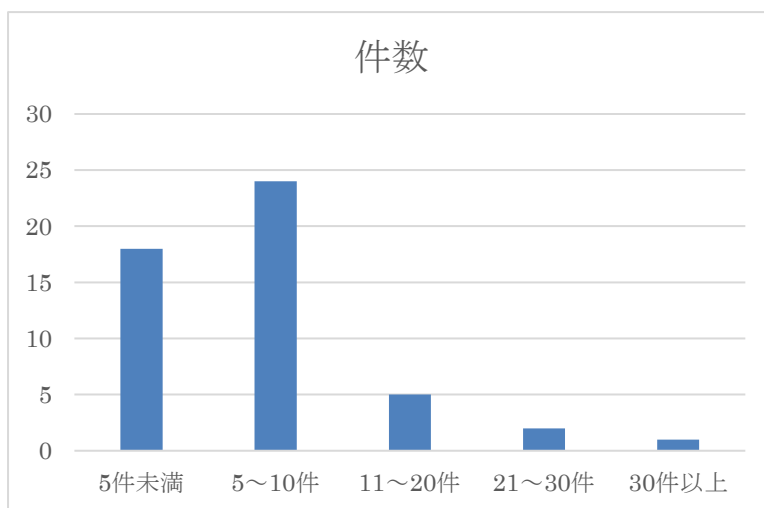
	回答	割合
5件未満	14	35.0%
5～10件	19	47.5%
11～20件	5	12.5%
21～30件	1	2.5%
31以上	1	2.5%
合計	40	100.0%

問7 貴事業所において、今後ケアプラン作成の依頼を受けることができますか。



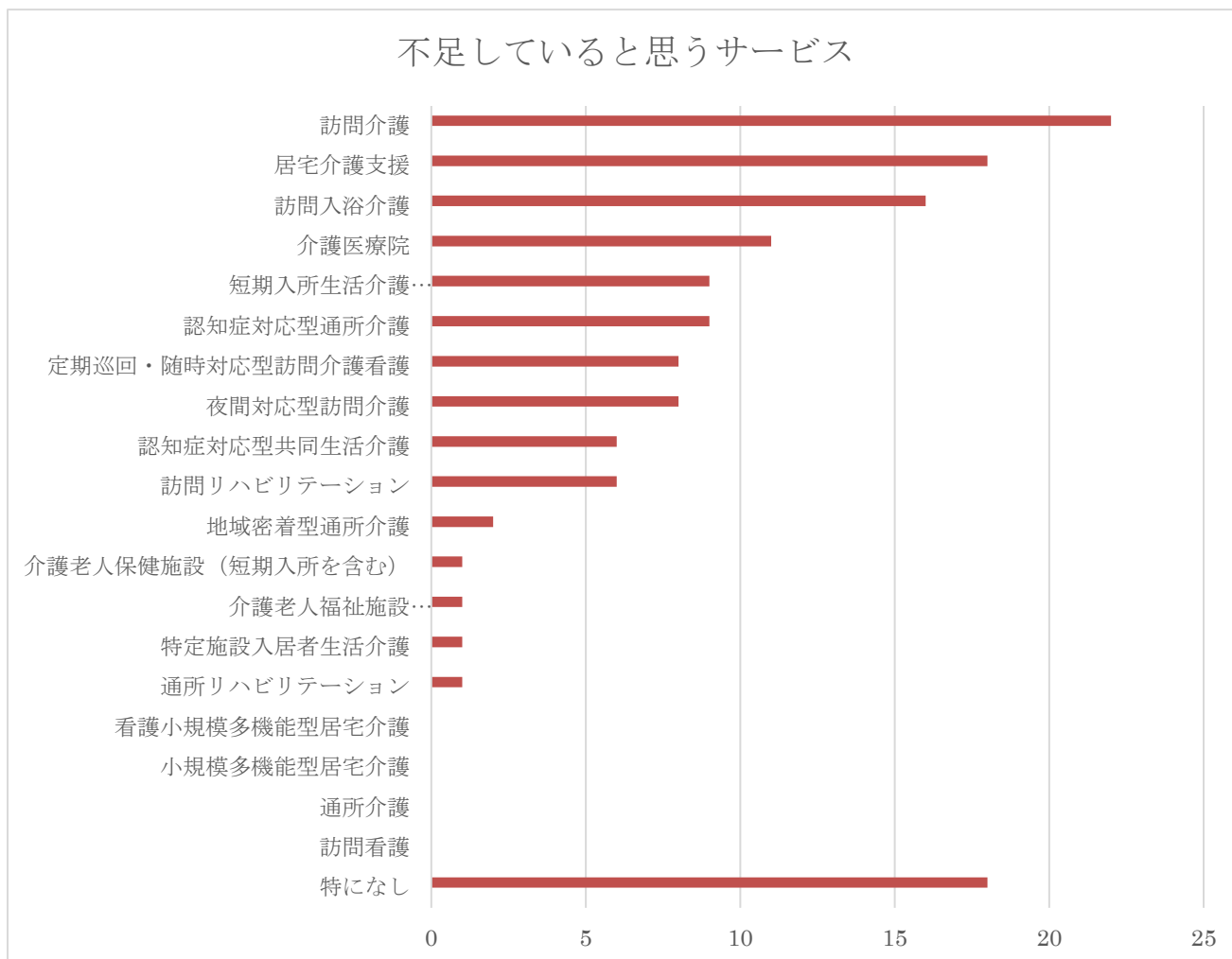
	回答	割合
できる	57	76.0%
難しい	18	24.0%
合計	75	100.0%

【「できる」と答えた事業所】



	回答	割合
5件未満	18	36.0%
5~10件	24	48.0%
11~20件	5	10.0%
21~30件	2	4.0%
30件以上	1	2.0%
合計	50	100.0%

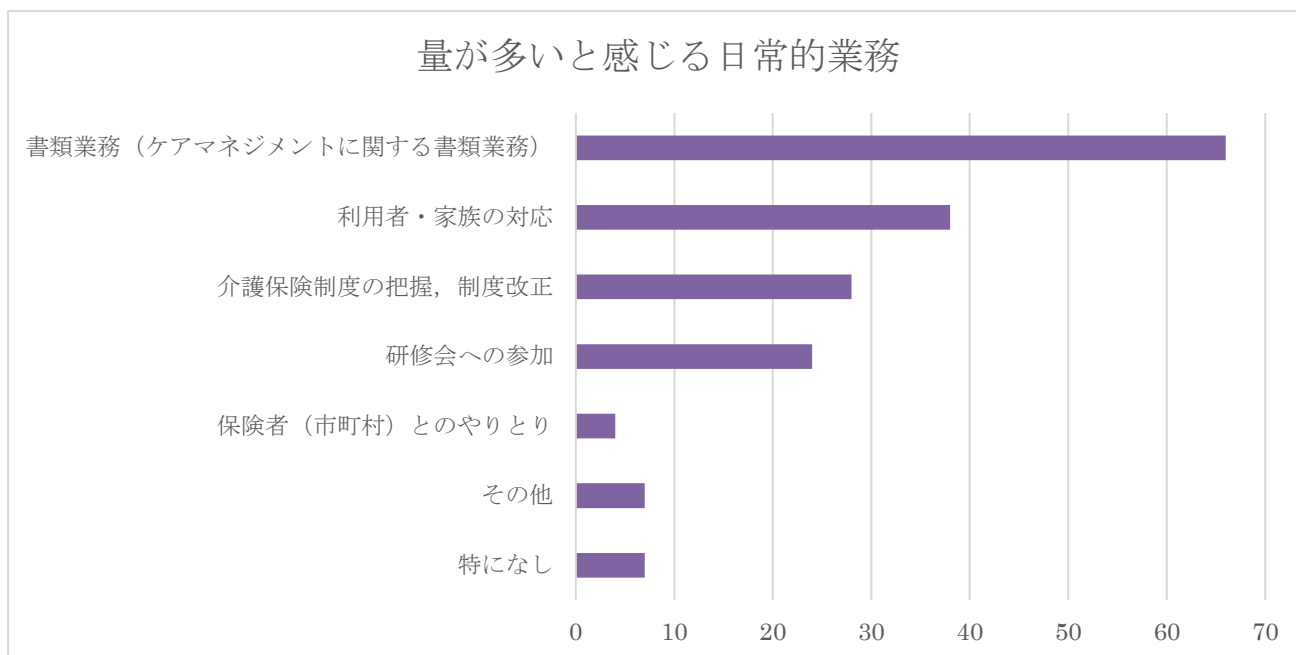
問8 水戸市内の事業所又は定員など、サービスの供給量が不足していると感じる介護サービスはありますか。  
 (複数回答可)



サービス名	回答	割合	サービス名	回答	割合
訪問介護	22	16.1%	地域密着型通所介護	2	1.5%
居宅介護支援	18	13.1%	介護老人保健施設 (短期入所を含む)	1	0.7%
訪問入浴介護	16	11.7%	介護老人福祉施設 (地域密着型サービス・短期入所を含む。)	1	0.7%
介護医療院	11	8.0%	特定施設入居者生活介護	1	0.7%
短期入所生活介護 (介護老人福祉施設が運営するものを除く)	9	6.6%	通所リハビリテーション	1	0.7%
認知症対応型通所介護	9	6.6%	看護小規模多機能型居宅介護	0	0.0%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	8	5.8%	小規模多機能型居宅介護	0	0.0%
夜間対応型訪問介護	8	5.8%	通所介護	0	0.0%
認知症対応型共同生活介護	6	4.4%	訪問看護	0	0.0%
訪問リハビリテーション	6	4.4%	特になし	18	13.1%
			合計	137	100.0%



問9 日常的な業務の中で、特に仕事量が多いと感じるものについてお答えください。(〇は3つまで)

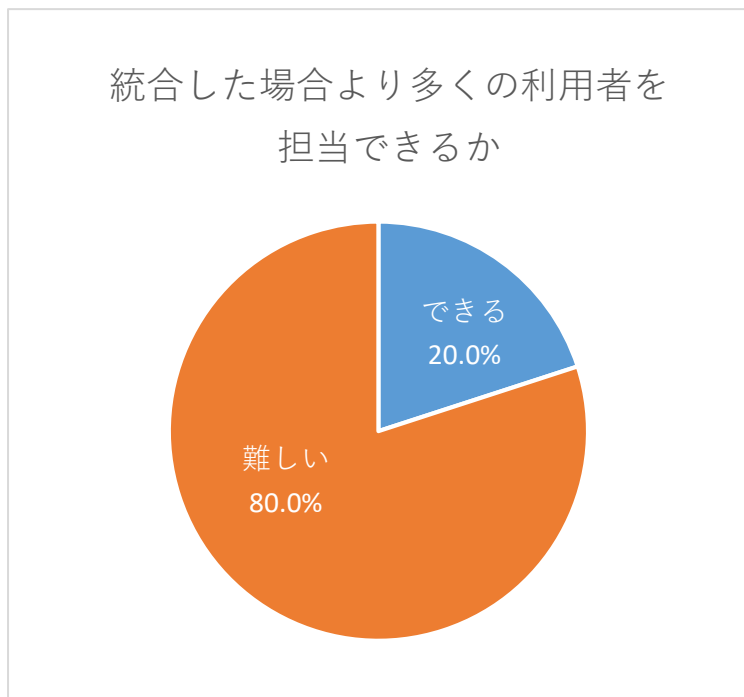


業務名	回答	割合
書類業務（ケアマネジメントに関する書類業務）	66	37.9%
利用者・家族の対応	38	21.8%
介護保険制度の把握，制度改正	28	16.1%
研修会への参加	24	13.8%
保険者（市町村）とのやりとり	4	2.3%
その他	7	4.0%
特になし	7	4.0%
合計	174	100.0%

【「その他」の記述】

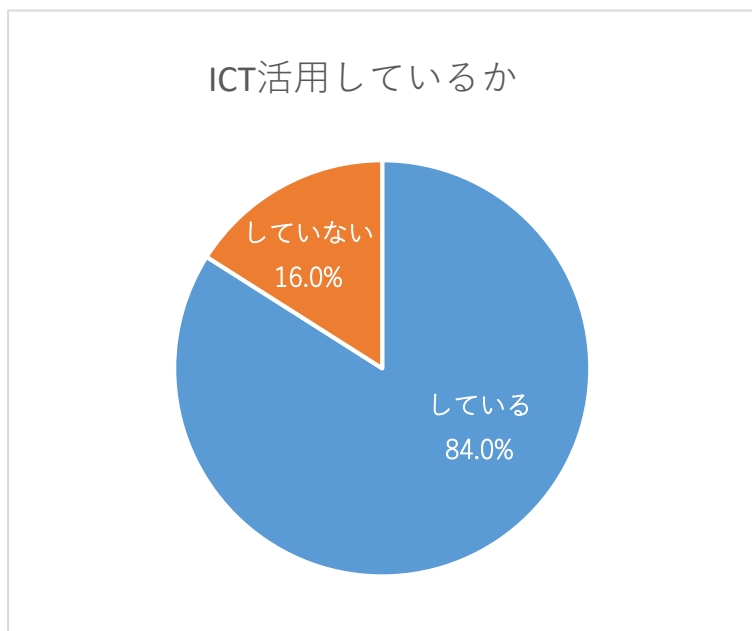
- ・ 独居の方の対応
- ・ ファイリング作業
- ・ 更新時の研修
- ・ 事業所管理業務
- ・ 長時間の介護支援専門員の更新研修
- ・ 請求業務、入退院調整

問 10 【従業者が一人の事業所にお聞きします】他の事業所と統合した場合、現在より多くの利用者を担当できると思いますか。



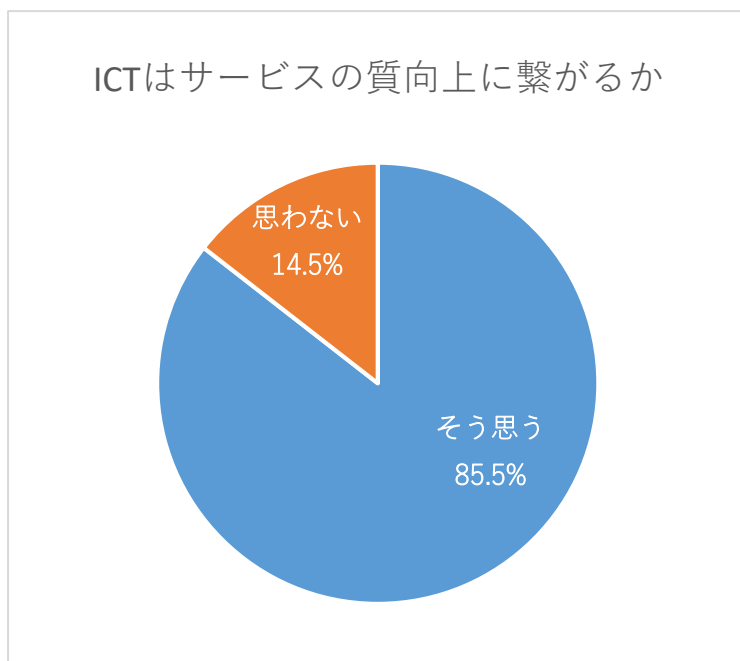
	回答	割合
できる	4	20.0%
難しい	16	80.0%
合計	20	100.0%

問 11 貴事業所では、ICT(パソコン・スマートフォン・タブレット等の機器や、それに付随するソフトやアプリ)の活用をしていますか。



	回答	割合
している	63	84.0%
していない	12	16.0%
合計	75	100.0%

問 12 ICT の活用は、サービスの質の向上に繋がると思いますか。

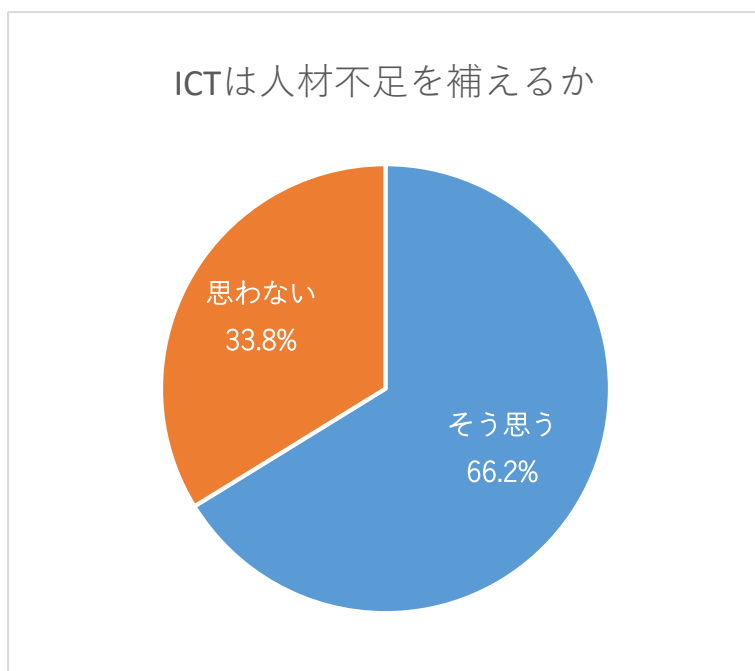


	回答	割合
そう思う	65	85.5%
思わない	11	14.5%
合計	76	100.0%

【「思わない」に○を付けた理由】

- ・時間の短縮や業務の効率化にはつながるが、サービスの質とは別だと思う。
- ・結局は人が入力するので変わらないと思う。
- ・利用者が現在の対応を望んでいる。ICTに対して利用者によっては抵抗がある。
- ・家族とメールなどのやり取りが可能となり、時間を気にせずに連絡が取れるようになった。しかし誤解を招く可能性もあり、最小限にしています。
- ・居宅介護支援の業務ではICTの必要性や利便性が感じられない。現状で十分。
- ・ICTやDXといっても、まずはアナログからきちんと整理することが前提になると思うため。
- ・ICTの活用は、仕事の効率性を高めるために有効だと思いますが、対人援助の質の向上は、別な視点の課題だと思います。
- ・市内全部の事業所が活用しているとは限らないので。
- ・現時点で書類業務が多く、これ以上多くなるとICT活用しても負担を感じる。
- ・ICTの活用は勿論良い面があるとは思いますが、作業の時間が少し短縮される程度で、行う作業内容は同じですので、サービスの質の向上にまでつながっていくかは今は疑問です。
- ・活用する側の意識や使い方次第の部分もあるので、必ずしもサービスの質の向上に繋がるのは難しいと思います。

問 13 ICT の活用は、人員不足を補う効果があると思いますか。



	回答	割合
そう思う	49	66.2%
思わない	25	33.8%
合計	74	100.0%

**【「思わない」に○を付けた理由】**

- ・そこまでの効果は期待できない
  - ・結局、その人のもとを訪問しなくては見えないことも多くある。家族とは繋がれても本人とつながるには難しい面がある。用いるツールにもよると思う。
  - ・結局は人が入力するので不足を補うまではならないと思う。
  - ・ICT の活用よりも移動距離を短縮した方が、効率的でサービスの向上につながる。
  - ・ICT の活用は、人員不足を補うほどの時短にはならない。
  - ・ICT の管理に労力が必要なのと、事業所間の共通のコミュニケーションツールとまでは当面ならない
- 他
- ・書類のやり取りでは効果はあると思いますが、全員が同レベルで使いこなせなくては逆に業務量が増えると思います
  - ・対応できる能力が不足の場合、負担になる。
  - ・行政では効果が出ると思うが、居宅ではそうは思わない。
  - ・現状ではそう思いません。一事業所だけで ICT 化しても、居宅の場合は、他の事業所が「紙」や「FAX」を使い続けると、それに合わせなければなりません。当事業所もがんばりますので、ぜひ水戸市が全事業所の ICT 化を強力に牽引してください。
  - ・人員不足は補えないと思っている。かえって手間がかかる場合もある。
  - ・人員不足を補うという事は一人当たりの受け持ち件数を多くする事と解釈しています。仕事の効率があがったとしても、件数を多く持つ事に繋げるのは疑問を感じているため。
  - ・利便性は上がるものの実際に必要な書類量が減る訳では無い。そもそも慢性的に残業を行っている体質がこの業種にはあると感じており、その適正化を図る程度に留まる様に思う。

- ・具体的にどのような活用が効果があるのか、イメージがつかない。
- ・皆がパソコンを上手く使いこなせている訳ではないと思う為
- ・ICTの活用が十分でなく、通常の業務に加えて処理をしている現状であるから。面談記録などその場で入力できないものも多い
- ・ICTの活用は使いこなす事が出来る人には大変有効で効果があると思うが、ケアマネの高齢化により活用できない人の方が多い現実がある為。
- ・利用方法が分からない。
- ・ICTを活用するのは人なのでマスターするまでや使いこなせなければ解消が難しい。
- ・ケアマネジャーの業務は対人援助技術や帳票整理等もあるので、ICTの活用だけでは、人員不足を補う事は出来ないと思う。
- ・対人技術が一番必要であるから。